

ふりがな 氏名	たびらき かんたろう	都道府県	富山県	
	田開 寛太郎			
所属/肩書	富山県立大学大学院 工学研究科 環境工学専攻 資源循環工学・環境政策学部門 博士前期課程 1年			
私の ESD活動	公益財団法人富山市ファミリーパーク公社における ESDプログラムの開発と実践、教育効果の検証			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

富山市ファミリーパークを舞台に、タブレット端末を活用した2泊3日の宿泊型体験ESDプログラム「呉羽丘陵たんけん隊」を試行した。富山市ファミリーパークは、動物園施設として環境教育等の実践をするだけでなく、現代に合った「新しい里山」の利活用を模索しているなど、動物園施設としての立場と、里山としての立場の両方を兼ね備えた、非常に独特な施設である。ESDプログラム開発に向けて、要素は次の通り。①自然と人間が調和する里山で行うこと。②動物園施設として、多様な生物の世界やいのちの繋がりを伝える等、気候変動、生物多様性、消費経済といった多様な分野の横断の可能性があること。③多様な主体が参加、取組める場であること。④呉羽丘陵を仲介して、市民一人一人の力により、地域社会を転換させる可能性を持つこと。⑤富山市が採択された「環境未来都市」の構想において、呉羽丘陵での「人と自然との共生&再生可能エネルギー」フィールドミュージアム形成を推進する事業が取り組まれており、現代の要望に応えた新規性の高いプログラムの開発が期待できること。

成果として、タブレット端末を使用することで、作業の効率化、学習者の自主性の向上、プレゼンテーションの実現性を高める等、ESDで育みたい力の醸成に寄与した。今後の課題の一部として、学習者は、主体的に情報収集を行い、それらを分析する能力を更に発展させる必要がある。効果的な情報収集・分析能力の獲得は、それに係る十分な動機付けと、指導者・専門家の知識と、学習者の知的好奇心のマッチングを必要とする。

今後、富山市ファミリーパークは、自然豊かな呉羽丘陵、里山を中心として地域と結びつき、環境NPO・市民団体・自治振興会・学校等の多様な主体と協働し、持続可能な社会づくりを目指し、体験を通して里山の自然、歴史、生活文化を知ることの出来る事業を展開する等、ESD取組の更なる発展が期待される。

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

五箇山合掌造り集落は、人里離れた山深い谷間の集落として、伝統的知識・技術が蓄積され、また、茅葺屋根の葺き替えは、「結」とよばれる相互扶助組織によって行われ、持続可能な土地利用より社会を構築してきた。今後、ESDの発展のためには、そのような日本の素晴らしい地域資源を、五箇山に暮らす地域住民、観光客、NPOや自治体など、全てのあらゆる人びとが認知できる教育・学習の促進が必要と考える。若者は、そのような場面で、学習者としての立場を担いながらも、次世代を担う立場として、主体的に持続可能な社会を構築していかななくてはならない。若者ならではの新しい視点、新鮮な態度で、ESDを享受するだけでなく、ESDの発展に寄与するため、積極的に日本国内、ひいては全国へESD取組を発信していきたい。